

西日本豪雨災害からの復興モデル技術実証

西日本豪雨災害の復興モデル技術として、根域制限栽培による早期成園化実証と軽量培土を用いた大苗育苗技術の開発による軽作業化を目指している。

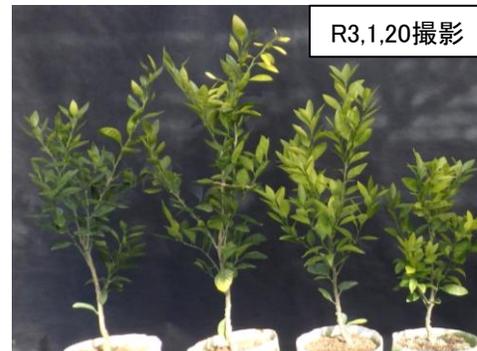
○根域制限栽培による早期成園化実証



根域制限栽培の実証園地

根域制限栽培
 樹間1.5m、畝幅1.6m
 防根シートの上にコンクリートブロックを敷き詰め以下の培土を搬入
A区＝まさ土 80% 牛ふん堆肥20%
B区＝まさ土 70% 牛ふん堆肥10%
 ゼオライト10% ピートモス 10%
対照区
 樹間3.0mで直植え
 まさ土 80% 牛ふん堆肥20%

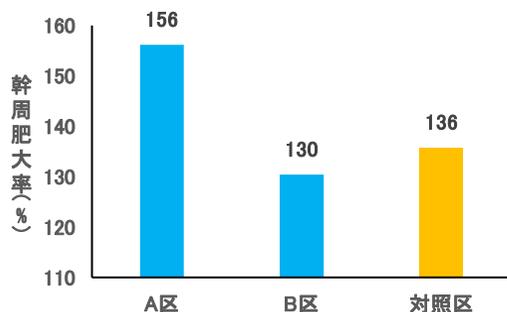
○軽量培土による大苗育苗技術の開発



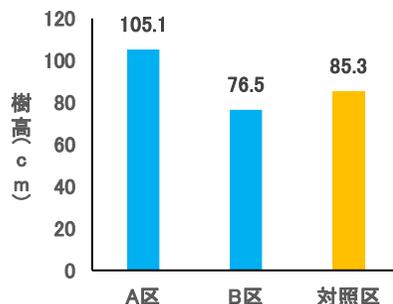
対照区 A区 B区 C区

植付け 令和2年3月18日
A区
 まさ土 50% ヤシガラ 50%
B区
 ヤシガラ 50% 粉碎もみ殻 50%
C区
 ヤシガラ 50% パーライト 50%
対照区
 まさ土 70% 牛ふん堆肥 20%
 ピートモス 10%

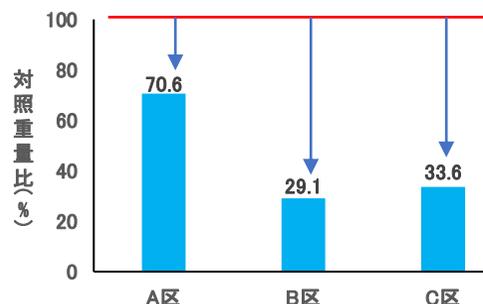
幹周肥大率



樹高



対照区との重量比



幹周肥大率



* 幹周はR2は4/15、R3は4/19に測定。肥大率=R3幹周/R2幹周×100(%)
 * 苗木は植え付け時に地上40cmまで切り返し、R3の4/19に樹高を測定した。

* 重量比=湿潤時における1ポット重量 試験区/対照×100(%)
 * 肥大率=令和3年1月18日時点の幹周/令和2年3月30日時点の幹周×100(%)

根域制限栽培A区が順調に生育

**育苗ポットの重量比&幹周の肥大率から
B区が有望**